

世界のお茶会



～スリランカ編～

～ブディカさんの故郷は光りかがやく島～

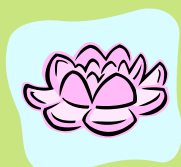
「スリランカってどんな国？」



平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）、イーグレひめじ創作室にて、国際交流ふれあい教室「世界のお茶会～スリランカ編～」を開催しました。講師は、報道カメラマンとしてご活躍のブディカ・ウィーラシンハさん。スリランカの首都近くにあるモラトウワという町のご出身で、現在は姫路在住です。講座では、ブディカさんご自身が撮られた写真も交え、様々な角度から母国を紹介してくださいました。

日本ではまだまだあまり馴染みがなく、多くの人にとっては未知の国であるスリランカですが、実は島国であり、国民の 7 割を占めるシンハラ人は仏教徒など日本との共通点も。仏教は、シンハラ人の生活に根付いており、仏陀の歯が祀られているという仏教徒の聖地「仏歯寺」で毎年 8 月行われるペラヘラ祭の盛大さなどからも、人々の厚い信仰がうかがえます。一方、タミル人はヒンドゥー教を信仰しており、ヒンドゥー寺院も各地で見られます。1 割弱と少数ですが、イスラム教徒やキリスト教徒もいるそうです。

සිංහලයා.



古くはセイロンとして知られていたスリランカ。イギリス統治時代に始まった紅茶プランテーションにより、セイロン紅茶は世界的に有名になりました。今回お出ししたのはもちろん、セイロンティー！スリランカの隠れた特産カシューナッツと、少しめずらしいデーツ（ドライなつめ）と共にご賞味いただきました。



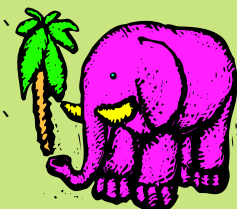
紅茶は、島中央の高原地帯で栽培されており、土地の高度によって味が異なります。高級な茶葉は輸出されるため現地ではあまり出回らず、イギリスのようにアフタヌーンティーの習慣もないようですが、コーヒーを飲む人は少なく、やはり紅茶は国民的な飲み物のようです。暑い国ですが、冷たい紅茶を飲むことはないそうですよ。

ちなみに、現在の国名「スリランカ」は 1948 年の独立時につけられた名前前で、「光りかがやく島」という意味だそう。その名の通り、国土は美しい山々や丘陵地、輝く砂浜などの島国らしい多彩な自然に恵まれ、スパイスの効いた滋味深いカレーをはじめとする独自の料理、伝統医学アーユルヴェーダなど、興味深い文化が生き続けています。また、有名なシーギリヤロックをはじめ、遺跡や自然遺産など 8 つの素晴らしいユネスコ世界遺産を有します。

2009 年に長く続いた内戦が終わり、人々の生活に平和が訪れました。それに伴い、海外からの観光客が年々増えており、観光産業の発展には著しいものがあります。講座参加者からもぜひ訪れてみたいという声が挙がっていました。

ブディカさんの写真の中には、かわいらしい象たちの写真も。スリランカには野生の象がおり、国立公園でのサファリも観光客に人気なのだそう。

アットホームな雰囲気の中、講師のブディカさんのおだやかでやさしい人柄が十分に伝わり、参加者の皆さんはあたたかい気持ちで帰られたようでした。



ブディカさん、ありがとうございました！

